

シベリア・サハでの
マイナス50°Cの暮らしと音楽文化



ピョートル・オコネシニコフ撮影

Sakha SNOWOHNK

2022.2.26 sat
13:30-14:30

講演会参加費 | 無料

※ウポボイへの入場料が必要です

申込不要・先着順(当日時間までに会場へお越しください。)

〈講師〉北海道科学大学 未来デザイン学部メディアデザイン学科
准教授 荏原 小百合

会 場：民族共生象徴空間(ウポボイ)体験学習館

主 催：公益財団法人アイヌ民族文化財団

共 催：北海道科学大学

【定員：30名を予定】

新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、中止となる場合がございます。中止の場合はウポボイ公式ウェブサイトにて告知いたしますので、ご確認の上ご来場くださいますようお願い申し上げます。



サハの口琴
ホムス



ウポボイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間



北海道科学大学
+Professional

シベリア・サハ共和国の

金属口琴「ホムス」を通して、

サハの自然と暮らしを紹介します。



シベリア・サハ共和国では、冬の気温は摂氏マイナス50度～60度を下回る日があります。その一方、夏は40度近くまで上昇し、年間の気温差は100度に及びます。そのような厳しい自然と共に生息するサハの人々の暮らしはどのようなものでしょう。そしてそこで培われてきた音楽文化とはどのようなものでしょう。



サハの口琴ホムス



【講師】

北海道科学大学 未来デザイン学部
メディアデザイン学科

准教授 萩原 小百合

専門は文化人類学、音楽人類学です。ヒトの行為としての音楽実践に着目し、ロシア連邦サハ共和国で製作されている金属口琴ホムスを通じて、サハの自然とヒトの関係性について研究しています。音楽文化研究では、実践に織り込まれたモノやヒトの関係性を詳しく分析します。近年はサハ共和国の人々が北海道を訪れることがとても多くなり、北国同士の交流が盛んになってきていますので、更なる文化交流の輪をひろげてゆきたいです。



サハの民具 展示コーナー

当日別会場で、サハの口琴
"ホムス"や、トナカイの毛皮で
作ったブーツ、馬乳酒杯などの
民具を多数展示します。

■ 場所：民族共生象徴空間(ウボボイ)体験学習館別館2

■ 時間：2/26(土)11:00～16:00

2022.2.26 sat

13:30-14:30

【お問い合わせ】 公益財団法人アイヌ民族文化財団 文化事業課

【会場】 民族共生象徴空間(ウボボイ)体験学習館 <https://ainu-upopoy.jp/>

【TEL】 0144-82-3914 (9:00～17:00) mail:submit@ainu-upopoy.jp